

分 野		授 業 科 目	年次	学期	単位	時間数	
統合分野		在宅看護概論	2	前期	1	15	
担当講師 (実務経験)		専任教員 退院調整看護師				時間 内 訳	12 2 試験 1
科目目標	在宅看護の意義、目的、対象、役割機能を理解する。 地域サービスを提供する人の役割とシステム、在宅看護の対象と看護活動について学ぶ。 主な状況における在宅看護の実際が理解できる。						
評価方法	筆記試験(100点)の成績で評価する。						
評価基準	6割以上獲得で合格とする。						
回 数	授 業 内 容	授業方法	回 数	授 業 内 容	授業方法		
第1回	講義説明 在宅看護の変遷 在宅看護の必要性 現代社会と在宅看護	講義	第7回	地域サービスシステム 連携 社会資源 在宅ケアとケアマネジメント チームケア 退院調整看護師の役割 退院計画・退院支援	講義 演習		
第2回	在宅看護の位置づけ 地域看護と在宅看護、在宅看護の目的と特性	講義 演習		終了試験			
第3回	在宅看護の対象 在宅看護を必要とする人々 在宅看護の倫理と基本理念 在宅療養者の権利と擁護(アドボカシー)	講義					
第4回	地域包括ケアシステム 在宅看護の特徴 在宅看護と施設内看護 パートナーシップ 生活の自立支援 QOL	講義					
第5回	家族を単位としたケア 在宅ケアと現代家族 家族システム理論	講義					
第6回	訪問看護の制度、仕組み 訪問看護ステーション	講義					
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 ナーシング・グラフィカ21 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向 財団法人厚生統計協会						
参 考 書	鈴木和子・渡辺裕子：家族看護論 理論と実践第4版 日本看護協会出版会 木下由美子：新版 在宅看護論 医歯薬出版株式会社						
備 考	在宅看護は、今までの学習内容と関連していることを理解できるようすすめる。 (生命と倫理、公衆衛生学、社会福祉、基礎看護学概論、成人・老年・母性・小児・精神看護学概論) 在宅看護の対象の理解は家族を単位とした在宅看護の必要性を理解できるようにすすめる。						

分 野		授 業 科 目		年次	学期	単位	時間数	
統合分野		在宅看護方法論Ⅰ (生活援助技術)		2	後期	1	30	
担当講師 (実務経験)		非常勤講師 ----- 非常勤講師 -----					時間 内 訳	14 ----- 14 ----- 試験2
科目目標	在宅療養者とその家族が、より健康に生活を送るためのニーズに応じた生活支援方法と技術を理解できる。							
評価方法	筆記試験(100点)の成績で評価する。							
評価基準	6割以上獲得で合格とする。							
回 数	授 業 内 容		授業方法	回 数	授 業 内 容		授業方法	
第1回	在宅で看護を展開するとは 家族介護力 訪問マナー 初回訪問 指導技術 相談技術 感染防止 バイタルサイン(アネロイド血圧測定)		講義	第1回	在宅看護介入時期別の特徴 在宅療養導入期 在宅療養開始初期 在宅療養安定期 在宅療養終了期		講義	
第2回	筋萎縮性側索硬化症(ALS)・慢性閉塞性肺疾患を例に以下を講義		講義	第2回	脳梗塞・脊髄小脳変性症等を例に以下を講義 移動のアセスメントと援助 寝返り・起き上がり・立ち上がり動作 車いすへの移乗動作 移乗補助用具 住宅改修 リハビリテーション(廃用症候群予防)		講義	
第3回	食・嚥下のアセスメントと援助 嚥下訓練 在宅経管栄養法(経管、胃瘻、腸瘻) 在宅中心静脈栄養法			第3回	清潔のアセスメントと援助 入浴 清拭 部分浴 洗髪 口腔ケア 褥瘡ケア		講義	
第4回	排泄のアセスメントと援助 排泄補助用具 膀胱留置カテーテル 排泄障害への援助 浣腸 摘便 ストーマ		講義	第4回	服薬管理 飲み方の工夫 インスリン自己注射		講義	
第5回	呼吸のアセスメントと援助 気管内カニューレ 在宅酸素療法 在宅人工呼吸療法 肺痰ケア 呼吸訓練 吸入 吸引		講義	第5回	認知機能のアセスメントと援助 認知機能の評価尺度 刺激の調整 身体的不快感や苦痛の早期発見および緩和 活動と休息のリズム 怒り・攻撃性・うつ・幻覚・妄想への対応		講義	
第6・7回	運動機能を高める技術 関節可動域訓練 筋力維持訓練 立位座位の維持		講義	第6・7回	移乗・清潔・服薬管理・認知機能の援助技術		演習	
	食・排泄・呼吸・運動機能の援助技術		演習		終了試験			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 ナーシング・グラフィカ21 在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版							
参 考 書	押川眞喜子：写真でわかる訪問看護・・・訪問看護の世界を写真で学ぶ!・・・改訂第2版 インターメディカ							
備 考	療養者の日常生活を「生活行為」として総合的にみていくこと、また必要な介助を見きわめるためのアセスメントの視点を理解できるように進める。基礎看護技術を想起させ、在宅での「食」「排泄」「清潔」「移乗」「呼吸」「服薬管理」「認知機能」に関する看護技術の方法を講義及び演習にて理解できるように進める。全てにおいて医療安全の観点も踏まえる。 在宅看護方法論Ⅲ(看護過程の展開)の事例を活用する。							

分 野		授 業 科 目		年次	学期	単位	時間数	
統合分野		在宅看護方法論Ⅱ (終末期の看護)		2	後期	1	15	
担当講師 (実務経験)		専任教員					時間 内 訳	14 ----- 試験1
科目目標	在宅で、療養者とその家族が罨戦して終末期を過ごし、死を迎えることができるための、看護過程の展開と援助方法及び技術を紙上事例及びロールプレイにより理解できる。							
評価方法	筆記試験(100点)の成績で評価する。							
評価基準	6割以上獲得で合格とする。							
回 数	授 業 内 容		授業方法	回 数	授 業 内 容		授業方法	
第1回	講義ガイダンス 在宅終末期ケア制度の位置づけ エンドオブライフケア 看取りの場		講義					
第2回	在宅終末期ケアにおける問題 在宅終末期ケアに必要なマネジメント		講義					
第3回	在宅での看取りを可能とする条件 QOLの維持・向上のための援助		講義					
第4回	各時期における在宅終末期ケア 看取りに関する技術		講義					
第5回	終末期（がん）の療養者に対する在宅看護の事例展開		講義					
第6回	ロールプレイング		演習					
第7回	まとめ 終了試験		講義					
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 ナーシング・グラフィカ21 在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版							
参 考 書								
備 考	在宅での終末期看護の視点・在宅での終末期看護の経過を理解できるよう進める。また、在宅での終末期の療養者とその家族の状況を理解できるよう事例を用いる。							

分 野		授 業 科 目		年次	学期	単位	時間数	
統合分野		在宅看護方法論Ⅲ (看護過程の展開)		2	後期	1	30	
担当講師 (実務経験)		専任教員 ----- 非常勤講師 -----					時間 内 訳	14 ----- 14 ----- 試験2
科目目標	健康障害をもちながら、在宅で生活をする人の看護の特徴を理解し、観察力、判断力、看護援助の方法を活用し、紙上事例により看護過程の展開ができるようになる。							
評価方法	筆記試験と事例展開課題の成績(100点)で評価する。							
評価基準	6割以上獲得で合格とする。							
回 数	授 業 内 容		授業方法	回 数	授 業 内 容		授業方法	
第1回	講義ガイダンス 在宅看護過程の展開について 社会資源 各職種との連携		講義	第1回	ICFの考え方		講義	
第2回	訪問看護の実際と記録 ALSの療養者について		講義	第2回	脳梗塞・認知症・糖尿病等の療養者に対する事例 展開		講義	
				第3回				
第2回	訪問看護の実際と記録 ALSの療養者について		講義	第4回	事例展開		演習	
第3回	筋萎縮性側索硬化症 (ALS) または慢性閉塞性肺疾患 の療養者に対する事例展開		講義	第5回	事例展開			
第4回						第6回	事例展開	
第5回	事例展開		演習	第7回	事例展開・まとめ			
第6回	事例展開							
第7回	まとめ							
	終了試験							
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 ナーシング・グラフィカ21 在宅看護論 地域医療を支えるケア メディカ出版							
参 考 書								
備 考	在宅看護概論・在宅看護方法論Ⅰを踏まえ、事例展開により療養者とその家族を理解し、在宅における看護過程の展開について理解を深められるよう進める。社会資源および各職種との連携も踏まえる。グループ学習とし、各自が積極的に参加できるよう助言を行い、学習内容はレポートにて提出する。 終了試験については講師より説明がある。							